

平成25年2月19日

お知らせ

資料提供先：鳥取県政記者クラブ
鳥取市政記者クラブ

会議を開催します

千代川流域における水災害に対する取り組みを考えるために

平成24年度 第2回「気候変動にともなう防災・減災を考える会」 を開催します

このたび、平成24年度で第2回目となる「気候変動にともなう防災・減災を考える会」(千代川流域圏会議・分科会)を下記のとおり開催いたしますのでお知らせいたします。

記

開催日時：平成25年2月26日(火) 14:00~16:00

開催場所：鳥取河川国道事務所1階・第1会議室

参加委員：別紙委員名簿のとおり

(要旨及び背景)

近年、全国的に大規模な水災害が頻繁に発生する中で、千代川流域においても、全国的な傾向と同様に、温暖化に伴う気候変動によると考えられる集中的な降雨、潮位の上昇傾向等が見られ、今後も流域に対する水災害リスクが上昇していくことが考えられています。

こういった背景を踏まえ、気候変動にともなう水災害リスクに対する適応策(ソフト的な取り組み)について、学識経験者、地元関係者、及び関係行政機関等で考えていくことを目的として本会を平成22年7月に設立しました。

第2回の本会議では、防災・減災に関するソフト対策を継続するための施策について、意見交換・議論を行う予定です。

本会議で、千代川沿川住民の水災害における自主防災意識(自助・共助)の向上を図り、官民一体となって「犠牲者ゼロ」に向けた取り組みを推進していきます。

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

TEL：0857-22-8435(代)

FAX：0857-29-8548

副所長(河川)

いぬやま 犬山 ただし 正

【担当】

防災課長

ふくむら 福村 まこと 誠

鳥取河川国道事務所ホームページアドレス

<http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/>

※取材について

会議は全て公開で実施します。会議中の撮影は可能ですが、会議の妨げにならないようお願いいたします。

※「千代川流域圏会議」とは

「千代川を軸として地域の交流、連携を図るとともに、千代川をよりよくするための取組や地域活性化への取組を行っていくこと」を目的に平成9年に設立された会議であり、今回設立される「気候変動にともなう防災・減災を考える会」はその分科会になります。

第2回 気候変動にともなう防災・減災を考える会 議事次第

1. 開 会
2. 議 事
 - ・ 前回会議の要旨
 - ・ 分科会のこれまでの取り組みの報告
 - ・ 住民アンケート結果の報告
 - ・ 防災・減災に関するソフト対策を継続するための施策について
3. 閉 会

【別紙】「気候変動にともなう防災・減災を考える会」の参加委員及び実施状況

気候変動にともなう防災・減災を考える会 委員名簿
(千代川流域圏会議・分科会)

氏名	役職等	備考
ひのきだに おさむ 檜谷 治	鳥取大学大学院工学研究科 教授	委員長
どい こうさく 土井康作	鳥取大学 地域学部 教授	
たになが まもる 谷永 守	鳥取地方気象台 防災業務課長	
まるも ゆうじ 丸毛 裕治	鳥取県 県土整備部 河川課長	
まつした たつお 松下達夫	鳥取市 防災調整監 危機管理課 参事	
おだ かずとし 尾田 一壽	日本赤十字社 鳥取県支部 事務局長	
にしむら いくお 西村 育雄	鳥取市消防団 団長	
たけだ やすあき 武田 恭明	鳥取市自主防災会連合会 会長	
たにぐち さとし 谷口 聡	富桑地区防災・防犯連絡協議会 副会長	
やまね ようじ 山根 洋治	鳥取市自主防災会連合会 明徳地区評議員	
まえだ まこと 前田 誠	鳥取市自主防災会連合会 大正地区評議員	
ばばき まさし 馬場崎 仁	郵便局株式会社 八東郵便局 局長	
いぬやま ただし 犬山 正	鳥取河川国道事務所(河川)副所長	
まつみ よしはる 松見 吉晴	鳥取大学大学院工学研究科 教授	平成24年度より オブザーバー
みちうえ まさのり 道上 正規	鳥取環境大学 理事	千代川流域圏会議 会長 オブザーバー



平成24年度第1回分科会の様子

分科会のこれまでの取り組みの報告

平成22年度

4回開催

千代川における気候変動に対するソフト対策の検討

- 気候変動にともなう水害リスク増大の把握
- 住民の防災意識アンケート調査の実施



千代川流域におけるソフト対策

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 防災意識の啓発 | <input type="checkbox"/> 地域コミュニティの強化 |
| <input type="checkbox"/> わかりやすい情報の提供 | <input type="checkbox"/> 情報伝達手段の整備 |
| <input type="checkbox"/> 避難方法の確立 | <input type="checkbox"/> その他 |

平成23年度

2回開催

具体的なソフト対策とソフト対策を推進するための検討

- モデル地区(富桑、明徳、大正地区)の取り組みへの支援
- 防災学習会、防災講演会の開催
- 防災学習ツールの作成

平成24年度

2回開催

ソフト対策を継続するための仕組みづくりの検討

- 住民の防災意識追跡アンケート調査の実施
- 防災フォーラムの開催



防災・減災に関するソフト対策を拡充・継続するための施策

分科会のこれまでの取り組みの報告

《目的》	《取り組み内容》	《具体的な内容》
防災意識の啓発	◆防災学習会(出前講座)の開催	●平成23,24年度で8回開催
	◆防災学習ツールの作成	●モデル地区等のランドマークを対象にはん濫CGを作成 ●住民同士で防災に関する意見交換を行うためのクロスロードゲームを作成
	◆防災講演会の開催	●群馬大学・片田教授を招聘して開催
	◆地域での防災訓練の実施	●地域で継続、教育委員会との連携
	◆防災フォーラムの開催	● 基調講演と住民参加型のパネルディスカッションを合わせた防災フォーラムを開催
	◆防災意識の啓発と継続	● 佐用町との意見交換会を実施
地域コミュニティの強化	◆地域防災マップの作成支援 ◆地域防災マップ作成マニュアルの作成・改良	●富桑地区のマップ作成を支援 ●面影地区にマニュアルの改良点について意見聴取
	◆モデル地区以外への取り組みの拡大	●用瀬、河原地区での学習会の開催
わかりやすい防災情報の提供	◆災害発生時等における特別な情報(警報音・照明等)の検討	●気象台、鳥取県、鳥取市、国土交通省およびマスコミ機関による行政間情報伝達勉強会を開催
		●夜間でも水位が監視できるようにライブカメラに照明を設置 ● 行徳水位観測所に警告灯を設置
情報伝達手段の整備	◆国、県、市の提供する防災情報の市民への周知方法の検討	●NHKのデータ放送の活用
		● コンビニや道の駅を活用した情報伝達基地の整備
避難方法の確立	◆避難場所が不足している箇所に対する検討	● 地域に想定浸水深や避難場所の位置を示した看板の設置(まるごとまちごとハザードマップ)
		● 大正地区を対象に避難場所を増やした場合の避難シミュレーションを実施
その他	◆アンケート調査の実施	● H22年度・H24年度住民アンケート調査を実施し、防災意識の変化を把握

青字:今年度の取り組み

2

昨年度の取り組み(防災学習会の開催)

大正地区、大正小学校、明德地区において防災学習会を開催

学習会プログラム

1. 千代川流域の特徴
2. 最近の水災害
3. 近年の気候変動
4. 佐用町の水災害からの教訓
5. 住民意識アンケート調査結果
6. 洪水被害を軽減するための備え
7. クロスロードゲーム



大正地区防災学習会(10月29日)

明德地区防災学習会(11月26日)



大正小学校防災学習会(10月18日)

■参加者の声(アンケート結果)

- ・防災意識を高めるには、**小・中・高等学校などの場できちっと教育することが必要**である。
- ・過去の災害から学ぶことが多いと思うので、地区での避難訓練を実施し、いろいろな経験を積む。
- ・訓練での反省点を次の訓練に生かし、マニュアルを充実していく。
- ・高齢者が多い地域でもあり、避難誘導など地域住民と協力することも必要だと思う。
- ・今回のような会への**参加者を増やすことが必要**である。

3

昨年度の取り組み(地域防災マップの作成支援)

作成手順	実施日	実施概要
研修会	3月4日	・マップ作成の目的・趣旨や作成手順の説明 ・鳥取大学・松見教授による洪水発生時における避難シミュレーションの説明
まち歩き	7月17,18,24日	・地域の危険箇所や防災に役立つ施設等を確認
マップ素案作成	9月10日	・まち歩きによるマップ素案、地盤高図、マップの活用方法、避難時の心得等の説明 ・クロスロードゲームの実施
マップ記載内容確認	12月3日	・マップの記載内容の確認
マップの完成	3月3日	・富桑地区防災マップ【水害編】の見方について学習

マップの仕様	<ul style="list-style-type: none"> ・A4版ブック型(北地区版、中地区版、南地区版) 10ページ ・マップ A1版片面
ブックの構成	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤高図 ・災害や避難に役立つ情報 ・洪水ハザードマップおよびハザードマップの情報 ・防災マップの活用 ・洪水時の避難 ・非常時の備え
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤高図には、一時避難場所、避難所を記載 ・災害や避難に役立つ情報には、AED、消火栓、消防ホース、防災倉庫、防災無線等の位置を記載 ・洪水時の避難には、自宅の浸水状況と建て方別による避難の方法を記載



まち歩き(7/24)



マップ記載内容確認(12/3)

昨年度の取り組み(地域防災マップの作成支援)



今年度の取り組み

防災フォーラムの開催

- 【日 時】平成25年1月26日（土）午後1時30分～4時30分
【会 場】鳥取市民会館 大ホール
【参加者】一般住民、防災リーダー、行政職員等 約150名

第1部 講演

九州北部豪雨・矢部川の災害について

- ★災害発生時、正しい判断を行うためには
①正確な情報を入手する
②災害に対する知識を備えておく
③物事を判断するときは多数の人と一緒に判断する



平成21年台風第9号災害の記録と復興について

- ・ハードを超える災害は必ずやってくる。私たちの町は私たちで守る。
- ・行政は発災時には何もできない。地域の力で生き残る。
- ・人と人の「絆」が生命を守る。



第2部 パネルディスカッション

取り組みを紹介するパネリスト



- ・富桑地区では、地域独自の防災マップを作成した。
- ・明徳地区では、民間施設と一時避難所の覚え書きを交わした。また、災害時要支援者救助制度を構築した。
- ・大正地区では、みんなが参加できる防災訓練を行った。避難シミュレーションにより、避難行動を学習した。

☆「地域の防災力」「個人の防災力」の向上に向けたソフト対策の仕組みをつくるためには・・・

短期的に取り組むべき内容

- ①住民主体による地区単位での防災学習会の開催
- ②地区における防災・減災活動のマスメディアを通じた広報

長期的に取り組むべき内容

- ①地区住民（子供から大人）のコミュニケーション強化
- ②小・中学生に対する防災教育。



～ 千代川流域の自主防災リーダーなど、約150名が参加！！～

今年度の取り組み

佐用町との意見交換会

- 【日 時】平成24年12月20日（木） 13:00～16:00
【場 所】兵庫県佐用町 久崎地区～幕山地区
【参加者】鳥取県、鳥取市、富桑地区、明徳地区、大正地区、国土交通省 計35名
【対応者】佐用町企画防災課
久崎地区自治会長、商店街会長
【内 容】13:00～ 久崎地区まち歩き
13:40～ 被災体験談聴取、意見交換
15:40～ 幕山地区被災現地視察

佐用町の現時点での取り組み

- 浸水して使えなくなった店舗を災害を継承する場として活用している。
- 防災マップを作成し、地域で「いつとき避難所」を決めている。
- 監視カメラを13箇所設置するとともに、災害モニター（川の近くに住む住民による監視）を20人配置している。（ボランティア）
- インターネット、携帯電話、エリアメール、CATV、サイレン、防災無線等、二重三重の情報伝達手段を整備している。
- いましめの意味もこめて、役場の前に浸水看板を設置している。



幕山地区の慰霊碑
（左側が被災者の出た水路）

参加者の感想

【行政職員】

- 災害時には行政は何もできないことを痛感した。
- 防災対策は、ありとあらゆる状況を想定することが必要と感じた。
- 行政として何をしなければいけないかを今一度考えたい。

【住民】

- 防災マップ作成に係わった以外にも意識づけが必要である。
- 地域の実情をみんなで考えることが、これからの防災につながる。

分科会のこれまでの取り組みの報告(今年度の取り組み)

地域防災マップ作成マニュアルの改良

より使いやすいマニュアルに改良することを目的として、面影地区自主防災会にヒアリングを実施。

【日時】平成24年11月20日(火) 19:00~20:00

【場所】面影地区公民館

【参加者】自治会長、公民館長等 計6名

マニュアルに対する主な意見

- ◆ マップを作成する手順については問題なし。
- ◆ 要援護者の住居をマーキングすることは、プライバシー侵害の観点から良くない。
- ◆ マップの活用方法のところに、**地域の特性情報を調査**することを追加すれば良い。

行政に望むこと

- ◆ 自分たちの地域で起こりうる災害を知り、マップに反映すべき。**行政から地域の特性を教育**して欲しい。
- ◆ 行政の公助は「**情報と物資**」。高いレベルの情報が末端まで届く仕組みづくりを行って欲しい。
- ◆ マップをうまく活用する方法を考えるのは、**自主防災の仕事**と考えている。

8. マップの活用・更新

8.2 防災訓練に活用しましょう

地域防災マップ【水害編】を利用し、住民全員参加で防災訓練を行いましょう。訓練では、マップ記載情報の確認や各自の避難経路の理解を深めましょう。訓練に全員参加することにより、地域のコミュニティが強化されます。

8.3 地域の情報を調査しましょう

改良部分

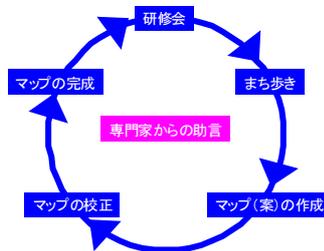
浸水想定区域図や土砂災害危険区域図の情報だけに頼らず、自分たちの住み地域の情報を収集しましょう。
過去に浸水した箇所や水路に転落した箇所など、地域内の水害経験者の話を聞いたり、水害時の写真を集めてマップに貼り付けたりしましょう。
自分たちの地域は、自分たちで歩いて、見て、学びましょう。

8.4 マップは定期的に更新しましょう

地域防災マップ【水害編】は、作成・配布して終わりではありません。

全戸配布した後の住民の意見や、防災訓練に使用した感想を踏まえ、逐次更新していきましょう。また、住宅地の造成や道路整備等により避難経路が変わった場合などにも更新しましょう。

マップを更新する場合も、研修会～まち歩き～案の作成～校正～全戸配布の手順を踏み、地域住民みんなの手で作成しましょう。できれば、防災の専門家(鳥取県や鳥取市の防災担当者、河川管理者等)の助言を受けましょう。



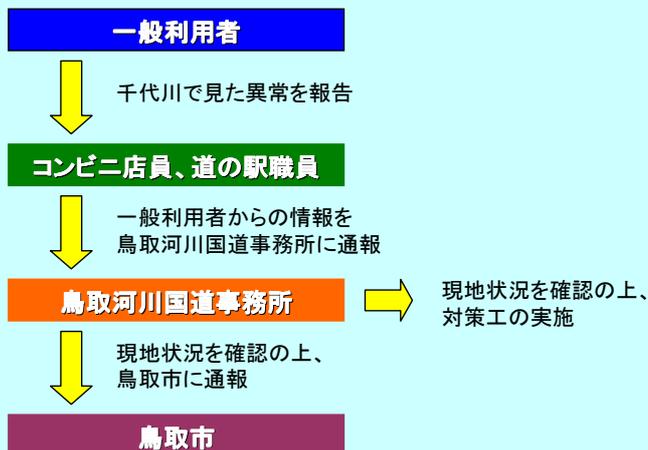
分科会のこれまでの取り組みの報告(今年度の取り組み)

コンビニや道の駅を活用した情報伝達基地の整備

鳥取市河原町の道の駅(清流茶屋 かわはら)や隣接するコンビニを河川防災情報の発信収集場所として利用。

1) コンビニ等を利用した防災情報の収集

- 24時間営業のファミリーマートの店員から、利用者が発見した千代川の異常に関する情報を鳥取河川国道事務所へ連絡してもらう。
- 道の駅営業中は、道の駅でも情報収集を行う。



2) 道の駅から情報発信

- 洪水等により千代川に異常が発生した場合、FAXを道の駅に送信し、情報コーナーに掲示して貰う。
- 千代川が破堤するなどの緊急時に、河川CCTVの映像を道の駅のTVモニターに放映する。

